

■会議結果報告書■

会議名称	第7回札幌市子どもの権利委員会
日時・会場	平成25年3月5日（火）16：30～18：30 札幌市教育文化会館402研修室
出席委員	13人出席
次回開催	5月頃（未定）

議題	概要等
<p>1 議事</p> <p>(1) 子どもの権利に関する施策の検証</p>	<p>○資料3に基づき事務局から説明（意見交換）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各区のPTA連合会では親子で自然体験をする事業を行っており、教育委員会からPTA協議会に補助を受けている。財政は厳しいと思うが、これからも補助していただきたい。 ・事業のいくつかに参加したこともあり、非常によい試みである。資料にもあるが、主体的な活動として実施されているかという点は課題が残る。また、保護者などの意識の高いところから参加の機会が与えられているという偏りを感じており、その辺も課題として検討すべき。 ・最初は親が子どもの背中を押す形で参加し、次の機会に子ども自身が参加したいという意欲が高まれば意味がある。例えば、姉妹都市の国際交流はとてもよい。以前は、福岡交流といったこともあったと思うが、食べ物や風土の異なる子ども同士の交流があるとよい。 ・資料にある事業は、大人がプログラムをつくり、子どもが参加するものが多い。子ども議会のように子どもが自分の意見を発信する場が増えるとよい。 ・地域にまちづくり会議があるが、以前、役員が中学校に意見を聞きに行ったことがあり、そのときは中学生も参加するが、卒業してしまうと元に戻ってしまう。本来は子どもがメインで発信しながら、それを大人がサポートするという形がよいと思うが、なかなかそうならないのが現状。地域には、元気な高齢者も多いので、まちづくり会議を活用して、子どもも参加してもらい、つながっていけるとよい結果になる。 ・これまでは大人が主体となっていた行事などを子どもに主体性を持たせてやってもらい、地域に参加することで、地域と関わりができ、行政とも関わっていくことができる。 ・今の小中学生は、親がなんでもしてしまい、主体的にといわれても意見を言えないのではないか。イベントや事業を知らない子どもも多い。主体的な参加を最終目標にするのはよいが、子どもに知ってもらい、参加することが楽しいと理解してもらうことが大切であり、まずはそうした場所をつくり、参加することを習慣づけることから始めるとよい。 ・小学生は意見を言えない子もいると思うので、小学生と中学生が関わるようにすると参加人数も増えるのではないか。 ・事業自体は広報さっぽろに掲載されていると思うが、大半は大人が見ているとおもうので、例えば「ぜひ、子どもと一緒に見てね」とあると行事も目にとまるのではないか。 ・子どもの権利と学校教育は連動していかなければならない部分が多いため、学校教育の中で子どもたちが権利の主体として何ができるのか、もう少し積極的に取り組むべき。 ・子どもが将来的に主体的に行動できる人間に育ってほしいということが学校教育の根本である。そのためには第一は授業であり、自ら調べ、活動するという授業を展開しようと取り組んでいる。子どもに、主体的にやりなさいと一方的に伝えてできるわけではないため、教師や大人があ

	<p>る程度セットし、その中で子どもが自由に考え、活動する場をつくることが大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の総合的な学習の時間や縦割り活動では上級生が下級生を引っ張ることがあるが、それはどちらにとっても子どもの主体的な活動になるため、それを支える教師や地域の人が必要である。 <p>○資料4に基づき事務局から説明 (意見交換：学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポート（以下「ピア」）と子どもの権利擁護はリンクするか？ <ul style="list-style-type: none"> －教育委員会：子どもが自分たちで主体的、自主的に支え合いながら生きていくという意味で子どもの権利と関わると考えている。そうした活動を通して、お互いの権利や自己肯定感を育むという意味もある。 －委員：権利について学習を十分したうえでであればよいが、この部分だけを切り取ると、当事者間の自助活動を推進するものに思える。いじめや不登校があったときは、お互い支えましょうという理解であれば訂正していただきたいし、まずは子どもを大事にする環境づくりから入るべき。 －教育委員会：指摘のとおり基本として条例の学習があって、その上にこうした活動が成り立つと考えている。 －委員：現状、アンケート結果では子どもが条例を知っていることにリンクしていない。子どもが十分に理解し、ピアであればよいが、アンケートと整合していない中でみると、地域の取組と学校の温度差を感じる。 ・ピアは、何か起きた後に子ども同士で何かをするというより、起きる前に子ども同士が支え合う環境をつくる取組であり、子ども同士で意見を言う、人権や生存権もつながる。条例を知ってもらうことが、意見表明の場を広げるのではなく、場があり、参加し、その後自分に権利があると理解することも子どもの権利の確保につながる。 ・ピアは、お互いの人権を尊重するための話し合いなので、人権教育の推進においては意義があるが、子どもの意見表明、参加機会の拡充に向けた環境づくりという視点で捉えたときに直接的ではないと感じる。また、アンケート結果を見ると、「言いたいことがない」という割合が高く、意見を言う以前に情報が届いていない。そうした意味で意見を言えるだけの情報を与えることが非常に大事。 ・学校での自治の授業は、札幌市はこんなにやっています、という形が多いと思うが、子どもが疑問を持てるような工夫もお願いしたい。 ・三者会議について、子どもが意見を表明し、大人に認められ、自分の主張が生きるという経験をしたときに、子どもは意見を持って発表することに意味があると感じると思う。小学校の中でもふつうに行われるよう啓発していただきたい。 ・学校において、意見表明の工夫も大事だが、子どもの権利とは何かをしっかりと理解させ、教育することが前提となる。 ・学校では、市の施策だけではなく地域で何が起きているか興味を持たせるような取組が必要。 ・市の施策に子どもの意見を反映しているということだが、それを子どもたちにフィードバックすることが次の意見を引き出す意識付けとなり、非常に大切だが、どのようにしているのか？ <ul style="list-style-type: none"> －事務局：大きく二通りあり、一つは直接学校などを訪問し、最初に意見を聞きに行き、再度訪問し結果を報告する場合と、もう一つは、資料をつくって意見を聞き、その結果も資料をつくって回答するという方法がある。子どもへのフィードバックが重要ということを認識しており、実際に推進計画を策定した際には、何度か子どもとのやりとりを重ねている。今後はそれをすべての部局に広げていくことが課題。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・三者会議をもっと広めてほしい。間違っただけを言っただけではいけないという雰囲気があり、自分の意見を発信しない人が多い。自分たちの意見を言ってもよい場をつくってもらうことは、将来にも役に立ち、自分を高めることになる。 ・学校現場には、話し合うという場面は多くある。意見を言うことが苦手な子どももいるが、それでも発言しながら成長していくということもある。 ・生徒会サミットでは、子どもたちが自分たちのしてきたことが社会の中で認められ、評価されたこともあり、自信につながったと思う。 ・生徒会の中では、学校祭など自分たちが楽しめることには、積極的に意見を言うが、理論付いていないことが多い。きちんと考え、他の人の意見も聞き、それを踏まえてどう考えていくのかといったことをこれからつくっていききたい。 ・意見表明は、基本的には家庭が大事。家庭の中で意見を言えることで、学校で訓練を受け成長していく。 <p>(意見交換：地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもサポーター養成講座に参加し、各団体の人と話をする中で、地域で子どもが参加させることを大人が無理に押し付けたという反省がある。これからは、子どもが社会に参加する権利を教示していかなければならない。 ・例えば、地域では中学生の子育てボランティアということがあるが、ボランティアというのは楽しくなければ継続できず、楽しかったので、参加したいという人が多い。また、先ほどもあったが、家庭が一番大切であり、そうした意味で子育て支援だけではなく、親育てをしていくことが必要。 ・中高生は学校、部活、塾で忙しく、地域の行事には参加しづらい。小学生の子どもが、上の年代の子どもが参加していないという問題があるのではないか。また、地域行事の運営は高齢の人が行っており、ジェネレーションギャップがあり、子どもの常識と町内会の役員のかい離が大きい。 ・確かに子どもは忙しいが、それでも参加してもらうために地域で考え推進していかないと、いつまでたっても子どもの参加は進まない。 ・地域の活動は活発化しており、こうしたことがいろいろな地域で展開されてほしい。地域といったときに、札幌市の基準としてはどの程度なのかを市民の中で理解したい方がよいと思うが、どうか？ <ul style="list-style-type: none"> －事務局：都市計画の分野では、まちづくりセンター（連合町内会）単位が基本である。ただ、最近では地域の実情によって、もう少し狭い範囲で地域の会議などを行っているということは聞いている。 ・行政は、親が小学校で子どもに関することを学び、子どもの地域参加を進めるような後押しをすることが大切。 ・市全体も一つの地域であり、子ども議会のような場が増えるとよい。子ども議会に参加した子どもが、その場の発言だけで終わり、自分の住む地域で何かをしていることはないように思うので、そうなれるような場があるとよい。
2. その他	<p>○事務局からの案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は5月を念頭に日程を調整する。 <p style="text-align: right;">以上</p>